

ブルゴーニュ地方モルヴァン方言における音声分布 －CA-, -CCA, PL-, BL-を語源に持つ語について－

2020年5月16日（土）

日本ロマンス語学会第58回大会

東京外国語大学大学院博士後期課程

伊藤玲子

目次

はじめに -モルヴァンとは-

1. 先行研究
2. リサーチクエスチョン
3. 方法
4. 分析
5. 結論
6. 今後のすすめ方

はじめに



図1 フランス(Google mapより)

- モルヴァンとは -

- ブルゴーニュ地方のほぼ中央。
- 最高902mの山岳地帯も含む、自然豊かな地域。
『モルヴァン地方自然公園』
- 歴史的に隣接周辺地域に属していた (Richard:153、291)。
- 19世紀初頭に幹線道路敷設 (地理的要因で遅れた)。
- 1960年代でも俚言が話されていた (Taverdet 1973:320-325)。
- 保守性と多様性の二つの側面を持つ (Régnier 1979a:27-28)。

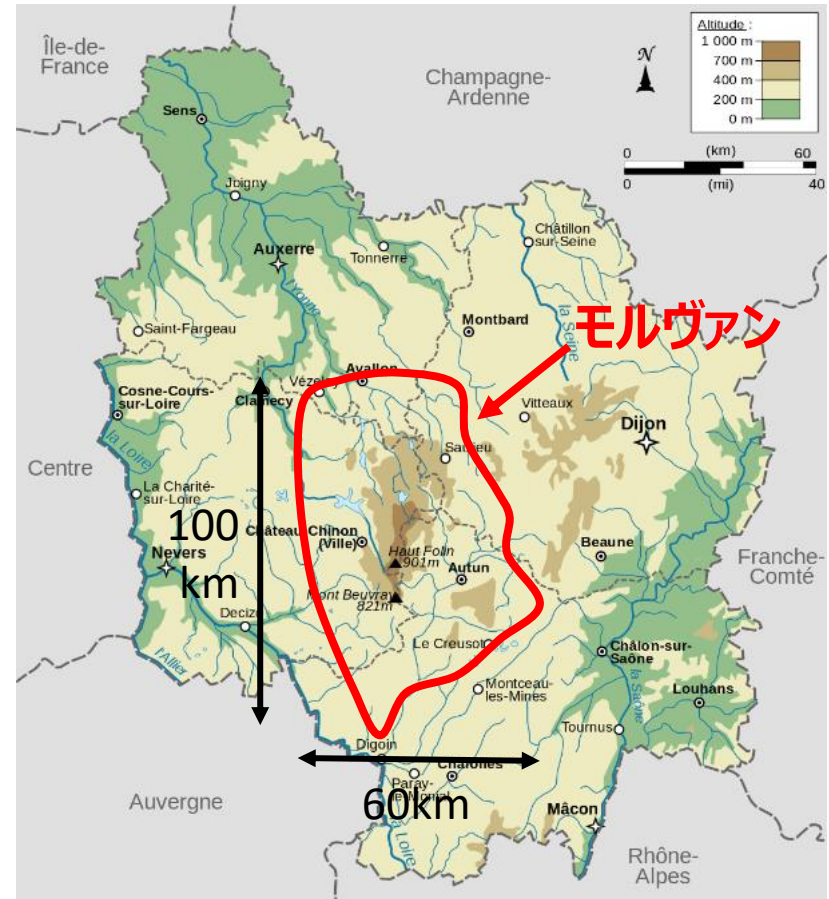


図2 ブルゴーニュ地方

1. 先行研究

1.1. ブルゴーニュ方言について

- Taverdet(1975, 1977, 1980)

言語地図 『ブルゴーニュ地方言語民族誌学地図集』

Atlas linguistique et ethnographique de Bourgogne

調査：1960年代、約1800枚、119地点

- Taverdet (1973)

上記言語地図のデータから、1960年代におけるブルゴーニュ地方の俚言の使用状況・言語的特徴について分析

「1960年代のブルゴーニュ地方では、俚言は既に廃れていたが、モルヴァンとブレス(南東部)では生き活きと話されていた」

1.2. モルヴァン方言について

- Régnier (1979b)

言語地図 『モルヴァンの話し言葉』 *Les Parlers du Morvan*
調査：1948-62年、498枚、112地点

- Régnier (1979a)

上記言語地図のデータを、音声的・形態的・語彙的に分析
Régnier (1979a:133-134)

「モルヴァンの俚言に共通した特徴はない」

- Bertrant (1979)

『モルヴァンの話し言葉』の音声表記をフランス語の伝統的な綴り字に書き換えて、県別にまとめた。

1.3. *a* の前の *c* から音声変化した[s]の分布

●Dauzat (1922 : 224-231)

1900年頃調査された『フランス言語地図』*Atlas Linguistique de la France* (以下ALF) を分析

北仏とフランコプロヴァンス地方における *a* の前の *c* 2つの型の口蓋化

① $c(a) > tch > ch$ 広範囲で見られる

② $c(a) > ts$ フランス西部～東部に残存

$c(a) > ts > s, st$ **ブルゴーニュ地方モルヴァン西部に *s* の孤立島**
(*vache* が *vas* と発音される)

シャンパーニュ地方 (ブルゴーニュ地方の北東)



s の存在は、かつてブルゴーニュ地方とシャンパーニュ地方は
ts に覆われていたことを意味する。

2. リサーチクエスチョン

Régnier (1979a:133-134) は、モルヴァンの俚言には共通した特徴はないという。はたして、「モルヴァン方言」(フランス語: morvandeau) は、1つの音声特徴を持つ方言と言えるのだろうか。

それを確かめるために、以下のリサーチクエスチョンを立てた。

- ①モルヴァンでは同一の語源から同一の音声変化を経たか？
- ②モルヴァンでは音声分布に特徴はあるか？

3. 方法

3.1. コーパス

- 2つの言語地図

- Régnier (1979b)

- 『モルヴァンの話し言葉』 *Les Parlers du Morvan* (以下PM)

- Taverdet(1975, 1977, 1980)

- 『ブルゴーニュ地方言語民族誌学地図集』

- Atlas linguistique et ethnographique de Bourgogne* (以下ALB)

- 共通点

- 同じ時期に調査 (20世紀中期)

- インフォーマント特性が同じ (中高年の農民)

2つの言語地図 例) la pluie「雨」

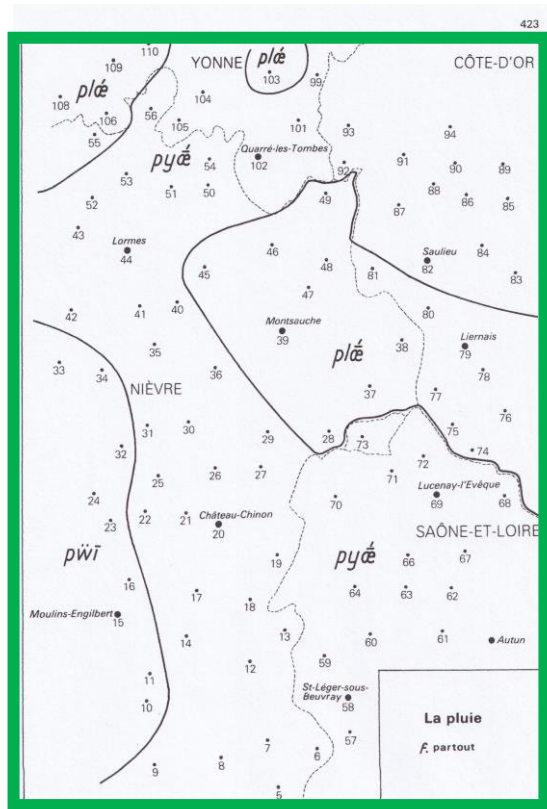


図3 PM 423 Régnier
(1979b :423)
調査地域：モルヴァン

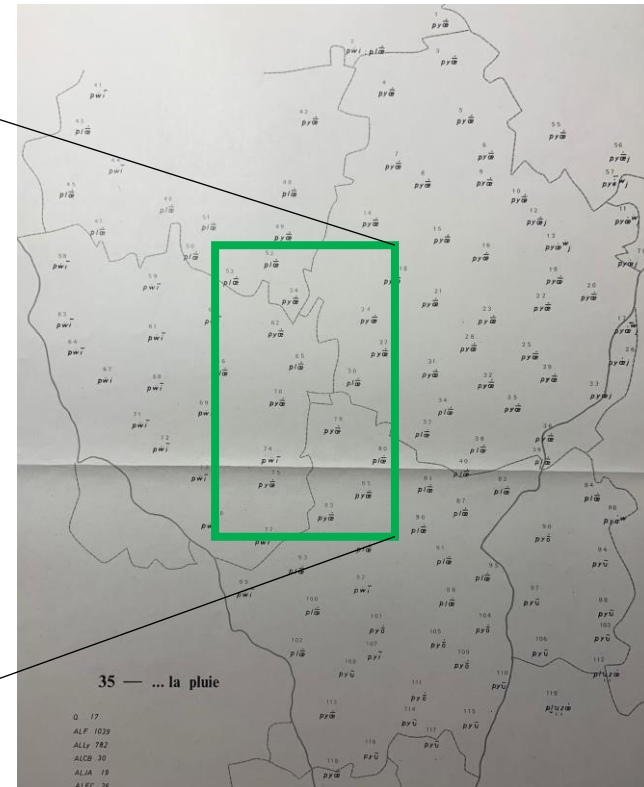


図4 ALB 35 Taverdet
(1975:35)
調査地域：ブルゴーニュ地方

3.2. 分析対象地点

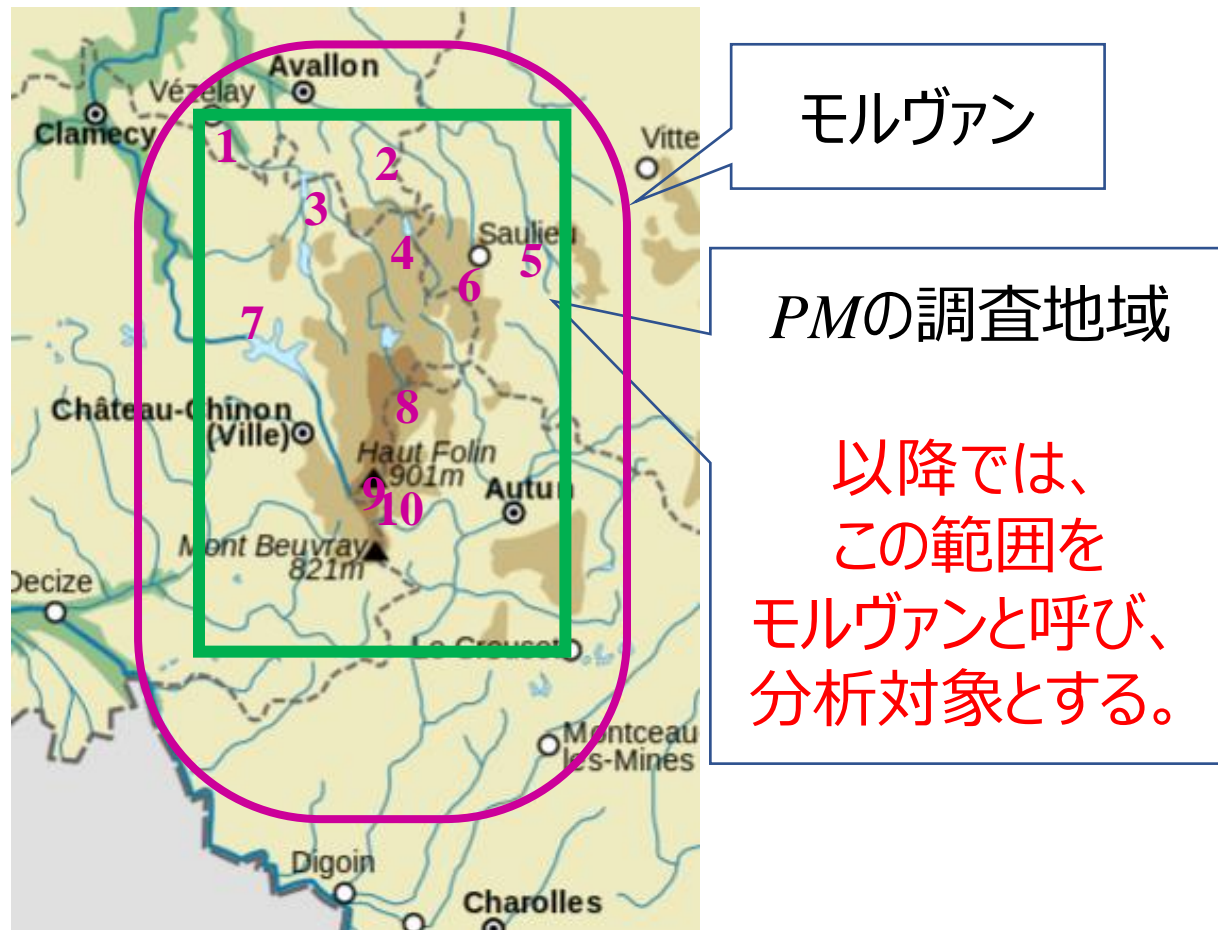


図5 2つの言語地図で共通して調査された
モルヴァンの10地点

3.3. 分析対象地図

- 同一語源を音節的に同じ位置に持つ内容語（名詞、形容詞）
- 2つの言語地図で共通して調査されていた地図

語源		地図タイトル (標準フランス語)	地図番号	
			PM	ALB
語頭のC(A)-	ラテン語 CATHĒDRA	Chaise 「椅子」	375	1419
	ラテン語 CARRU(M)	Char 「(牛馬が引く) 4輪荷車」	93	1268
	ガリア語 CAMMĪNU(M)	Chemin 「道路」	15	238
語末の-CC(A)	ラテン語 BŪCCA	Bouche 「口」	432	1330
	ラテン語 VACCA	Vache 「雌牛」	239	1026
語頭のPL-	ラテン語 PLŪVIA	Pluie 「雨」	423	35
	ラテン語 PLŪMA	Plume 「羽、羽毛」	288	1187
語頭のBL-	ゲルマン語 *BLANK	Blanche 「白い (女性形)」	240	867
	古フランク語 *BLĀD	Blé 「小麦」	171	389
	古フランク語 *BLETTIAN	Blet 「(果物が) 熟れすぎた」	-	602

表1 分析対象地図（青色は補足のため参照した地図）

3.4. 手順

- 語源から標準フランス語への音声変化を参照
語源の参照に使用：「フランス語語源辞典」
Französisches Etymologisches Wörterbuch. Eine darstellung des galloromanischen sprachschatzes (FEW)
- 音声を表す語の語源を検討（語源が異なる語は扱わない）
- 10地点の音声
 - 注）・ 1つの言語地図で記載がない地点
→ もう一方の言語地図の音声のみ扱う
 - ・ 2つの言語地図両方で記載がない地点
→ 他の地図を参照して補う
- モルヴァンにおける音声分布
- 周辺地域との関連性(*ALF*を参照)
 - *ALF* (1900年頃に調査)と*PM / ALB* (1950年前後に調査)は、調査時期に約50年のずれ。
 - 広い視野で音声分布を観察するために参照。

4. 分析

4.1. 語頭のC(A)-

CATHĚDRA「椅子」

- CATHĚDRAから標準フランス語 “chaise” への音声変化

ラテン語CATHĚDRA > … > 5世紀 [kjadiedra] > [ʃadiedra] > … >
13世紀 [ʃajerə] > 近代フランス語 chaire > chaise[ʃɛ:z] (Zink 1991:200)

- 音声を表す語の語源の検討

- [ʃɛ:r] ・モルヴァンでは、[z] > [r] (Régnier 1979:86)

- ・近代フランス語 chaireと同じ

→ いずれにせよ、語源はCATHĚDRAと考えられる

- [ʃɛ:l][sɛl][se:l] モルヴァンでは [r]と[l]は混同 (Régnier 1979:88)

→ 語源はCATHĚDRAと考えられる

- [ʃɛ:][se:] ブルゴーニュ地方 [r] > [z] > φ (Taverdet 1973:322)

→ 語源はCATHĚDRAと考えられる

CARRU(M)「4輪荷車」

- CARRU(M) から標準フランス語 “char” への音声変化
ラテン語 CARRU(M) > 5世紀 [kjarru] > [tʃarro] > 7世紀 [tʃar]
> 13世紀 [ʃar] > 17世紀 [ʃaʁ] (Zink 1991:116)
- 音声を表す語の語源の検討
 - [sejo][ʃejo] モルヴァン北西部では[r] > [j] (Régnier 1979a:84)
→ 語源はCARRU(M)と考えられる

CAMMĪNU(M)「道路」

- CAMMĪNU(M)から標準フランス語 “chemin” への音声変化
ガリア語 CAMMĪNU(M) の語頭のCA-の音声変化
5世紀 [kja] > [tʃe] > 7世紀 [tʃe] > 11世紀[tʃə] > 13世紀 [ʃə]
(Zink 1986 : 117)

地点	コーパス	CATHĚDRA	CARRU(M)	CAMMĪNU(M)
1	PM	[se:l]	[sejo]	[ʃmẽ]
	ALB	[se:]		[ʃmẽɲ]
2	PM	[ʃe:z]	[ʃɛ:r]	[ʃmẽ]
	ALB	[ʃe:r]		-
3	PM	[ʃe:l]	[sejo]	[ʃmẽ]
	ALB	[ʃe:z]		[smẽɲ]
4	PM	[ʃe:z]	[sar]	[ʃmẽ]
	ALB	[ʃe:l]	[se:r]	[smẽ]
5	PM	[ʃe:z]	[ʃɛr]	[ʃmi]
	ALB	[ʃez]	[vwɛty:r]	
6	PM	[ʃe:z]	[ʃjɛr]	[ʃmi]
	ALB	[ʃez]	[ʃæɾ]	
7	PM	[ʃe:]	[sejo]	[ʃmẽ]
	ALB	[ʃe:] [sɛl]	[ʃɛjo]	[smẽ]
8	PM	[sje:z]	[sjar]	[smi]
	ALB	[ʃe:r]	[sja:r] [sa:rɔt]	
9	PM	[ʃe:z]	[sja:r]	[ʃmẽ]
	ALB		[sje:r]	[smẽɲ]
10	PM	[ʃe:z]	[sja:r]	[ʃmẽ]
	ALB		[sje:r]	[smẽɲ]

- [ʃ]
- [ʃʲ]
- [s]
- [sj]
- 扱わない

表2 語源にCA-を持つ3語の10地点における音声

語源にC(A)-を持つ3語の モルヴァンにおける音声分布

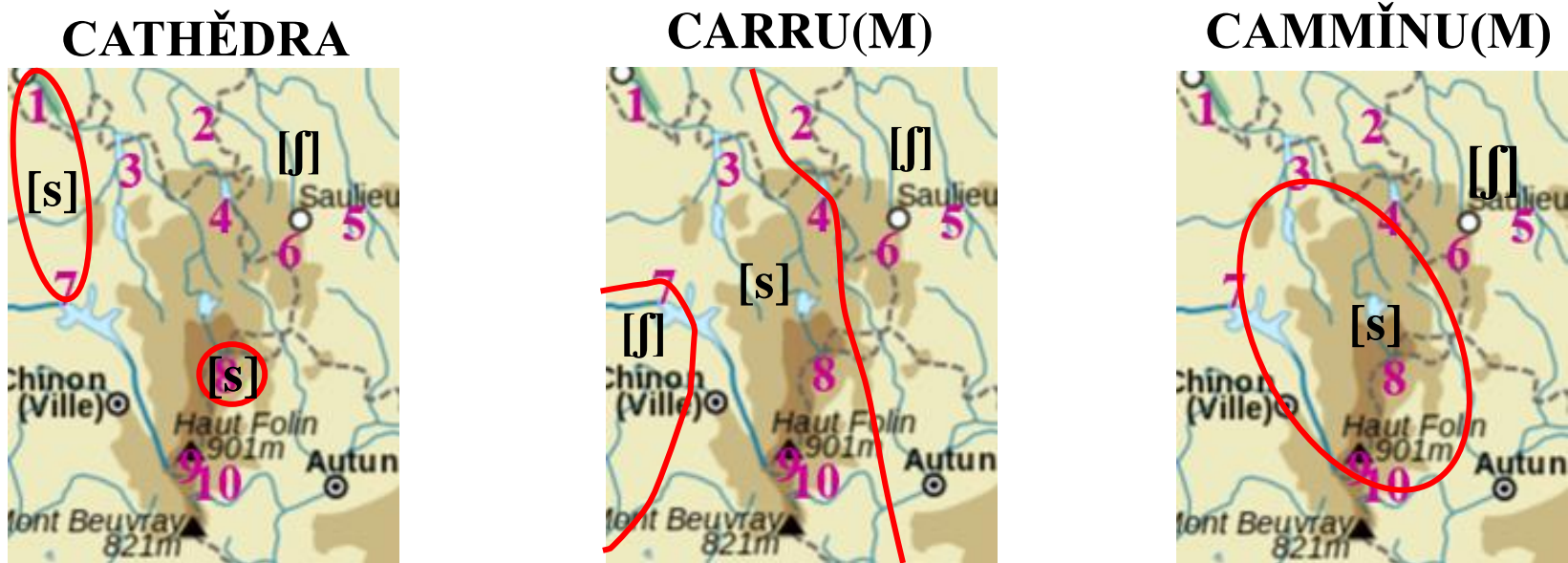
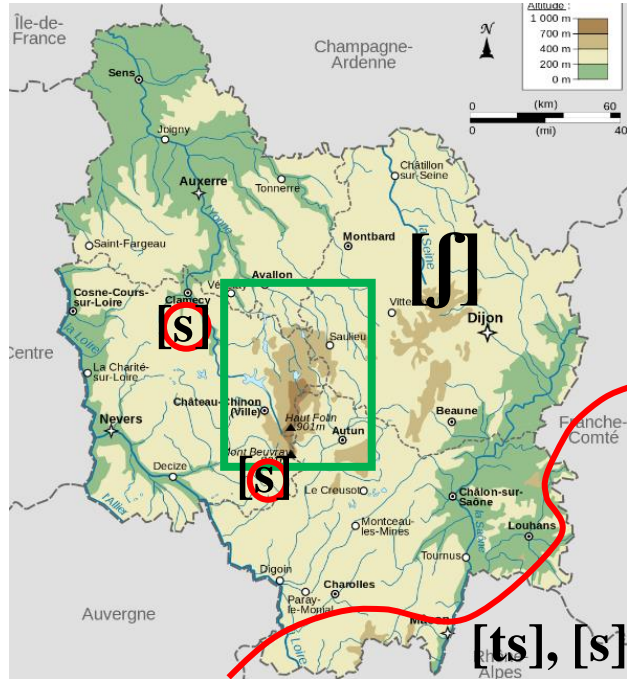


図6 モルヴァンにおける音声分布

- 語によって[s]と[ʃ]の音声分布が異なる
- [s]はモルヴァン中央～西部に見られる
- [s]は標高の高い地域に見られる

周辺地域との関連性

CATHÈDRA, CARRU(M)



CAMMĪNU(M)

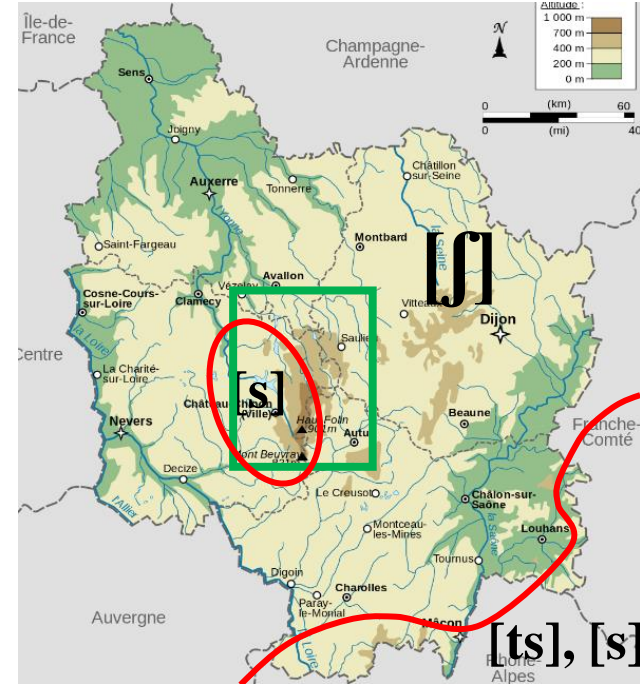


図7 20世紀初頭の音声分布

- モルヴァンで見られる[ʃ]は、周辺地域と連続している。
- Dauzat (1922 : 224-231) が指摘するモルヴァンにおける[s]の孤立島は、この3語でも1900年当時存在していた。[s]は周辺地域との連続性はないが、ブルゴーニュ地方南東部でも見られる。

4.2. 語末の-CC(A)

BŪCCA 「口」

- BŪCCAから標準フランス語 “Bouche” への音声変化
ラテン語 BŪCCA > 古仏語[bɔʃe] > [buʃ]
(Fouché 1969:232)

VACCA 「雌牛」

- VACCAから標準フランス語 “Vache” への音声変化
ラテン語VACCA > 5世紀 [vakkja] > [vattja]
> 6世紀 [vattʃa] > 7世紀 [vatʃə] > 13世紀 [vaʃə]
> [vaʃ] (Zink 1991:116)

地点	コーパス	BŪCCA	VACCA
1	PM	[bwis]	[vɛs]
	ALB		
2	PM	[buʃ]	[vɛʃ]
	ALB	-	
3	PM	[bus]	[vɛs]
	ALB	[bys]	
4	PM	[bus]	[vɛs]
	ALB	[bwɛs]	
5	PM	[buʃ]	[vɛʃ]
	ALB	-	
6	PM	[buʃ]	[vɛʃ]
	ALB	-	
7	PM	[bwes]	[vɛs]
	ALB	[bys]	
8	PM	[bwes]	[vɛs]
	ALB	[bwɛs]	
9	PM	[bus]	[vɛs]
	ALB	[bys]	
10	PM	[bus]	[vɛs]
	ALB	[bys]	

[ʃ]
 [s]
 扱わない

表3 語源に-CCAを持つ2語の10地点における音声

語源に -CC(A) を持つ2語の音声分布と 周辺地域との関連性

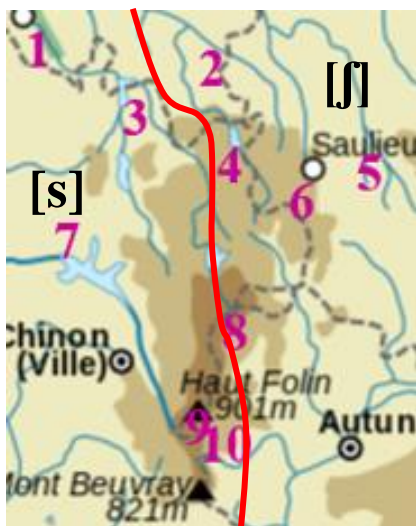


図8 モルヴァンにおける2語の音声分布

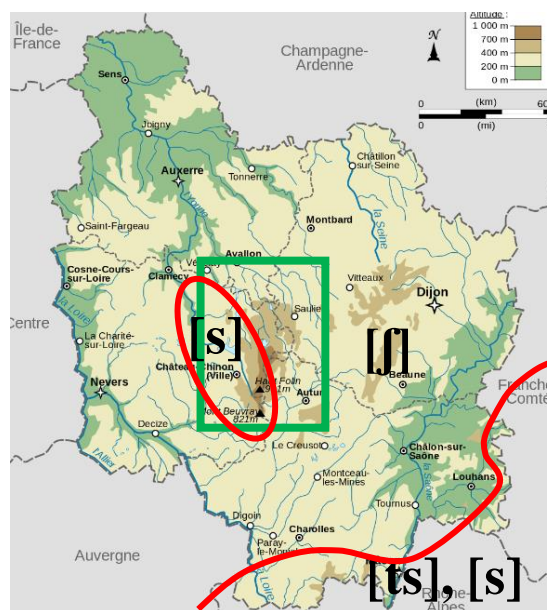


図9 20世紀初頭における音声分布

- モルヴァン東部で見られる[ʃ]は周辺地域と連続している。
- C(A)-と同様に、モルヴァン中央～西部で見られる[s]は、周辺地域との連続性はないが、ブルゴーニュ地方南東部でも見られる。

4.3. 語頭のPL-/BL-

PLŮVIA「雨」

- PLŮVIAから標準フランス語“pluie”への音声変化
ラテン語 PLŮVIA > *pluia > [plɥi] (Fouché 1966 : 684)

PLŪMA「羽、羽毛」

- PLŪMAから標準フランス語“plume”への音声変化
ラテン語 PLŪMA > [plum] (Fouché 1966 : 684)

*BLANK「白い」

- *BLANKから標準フランス語“blanc” (男性形) への音声変化
ゲルマン語*BLANK > *blancu > blanc[blã]
(Fouché 1966 : 683)
女性形“blanche”の語頭子音もこれに準ずる。

*BLĀD 「コムギ」

- *BLĀDから標準フランス語 “blé” への音声変化
古フランク語 *BLĀD > *bladu > [ble] (Fouché 1966 : 683)
- 音声を表す語の語源の検討
2言語地図の3地点（地点8, 9, 10） : [fromã], [frɔmã], [frõmã]
モルヴァンやブルゴーニュ地方南東部では、blé の意味で
“froment” が使われる (Taverdet et Navette-Taverdet 1991:77)
語源：ラテン語 FRUMENTU(M)
→ blé とは語源が異なり、分析対象外
→ データのない3地点を補うため、次の地図を参照

*Blettian 「（果物が） 熟れすぎた」

- *BLETTIAN から標準フランス語 “blet” への音声変化
古フランク語 *BLETTIAN > [blɛ]

地点	コーパス	PLŮVIA	PLŪMA	*BLANK	*BLĀD	*Blettian
1	PM	[plø]	[pløm]	[blãʃ]	[ble]	
	ALB	[plø:]	[plœm]	[blãʃ]	[frumã]	[blo]
2	PM	[pjø:]	[pjœm]	[blãʃ]	[bje]	
	ALB			[bjãʃ]	[frumã]	[bjo]
3	PM	[pjø:]	[pjœm]	[bjãʃ]	[bje]	
	ALB					
4	PM	[plø:]	[pløm]	[blãʃ]	[frumã]	
	ALB		-		[bje]	[bjo]
5	PM	[pjø:]	[pjœm]	[bjẽ:s]	[bjε]	
	ALB		-			
6	PM	[plø:]	[pløm]	[blẽʃ]	[blε]	
	ALB		[plœm]	[blã:ʃ]		[blo]
7	PM	[pɥi:]	[pjœm]	[bjãʃ]	[bje]	
	ALB	[pjø:]		[bjãʃ]		[bjo]
8	PM	[pjø:]	[pjœm]	[bjẽs]	[frõmã]	
	ALB					[fromã] ← [bjo]
9	PM	[pjø:]	[pjœm]	[bjãʃ]	[frõmã]	
	ALB			[blãʃ]	[frõmã] ← [bjo]	
10	PM	[pjø:]	[pjœm]	[bjãʃ]	[frõmã]	
	ALB		-		[fromã] ← [bjo]	

[pl][bl]
 [pj][bj]
 [pɥ]
 扱わない

表4 語源にPL-/BL-を持つ語の10地点における音声

語源にPL-/BL-を持つ4語の モルヴァンにおける音声分布

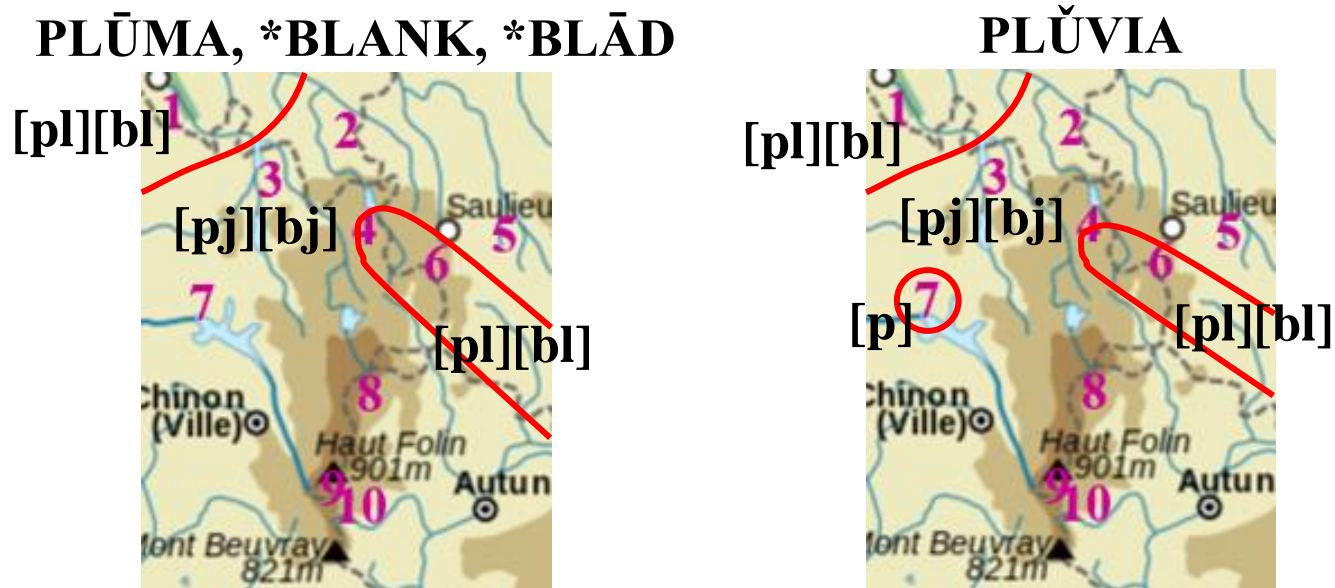


図10 モルヴァンにおける音声分布

- 語源のPL-と語源のBL-を持つ4語は、音声分布がほぼ一致。語頭子音[p][b]の調音点・調音方法が共通していることが理由か。
- PLŮVIAのみモルヴァン西部で[p]がある (右図 地点7)。

周辺地域との関連性

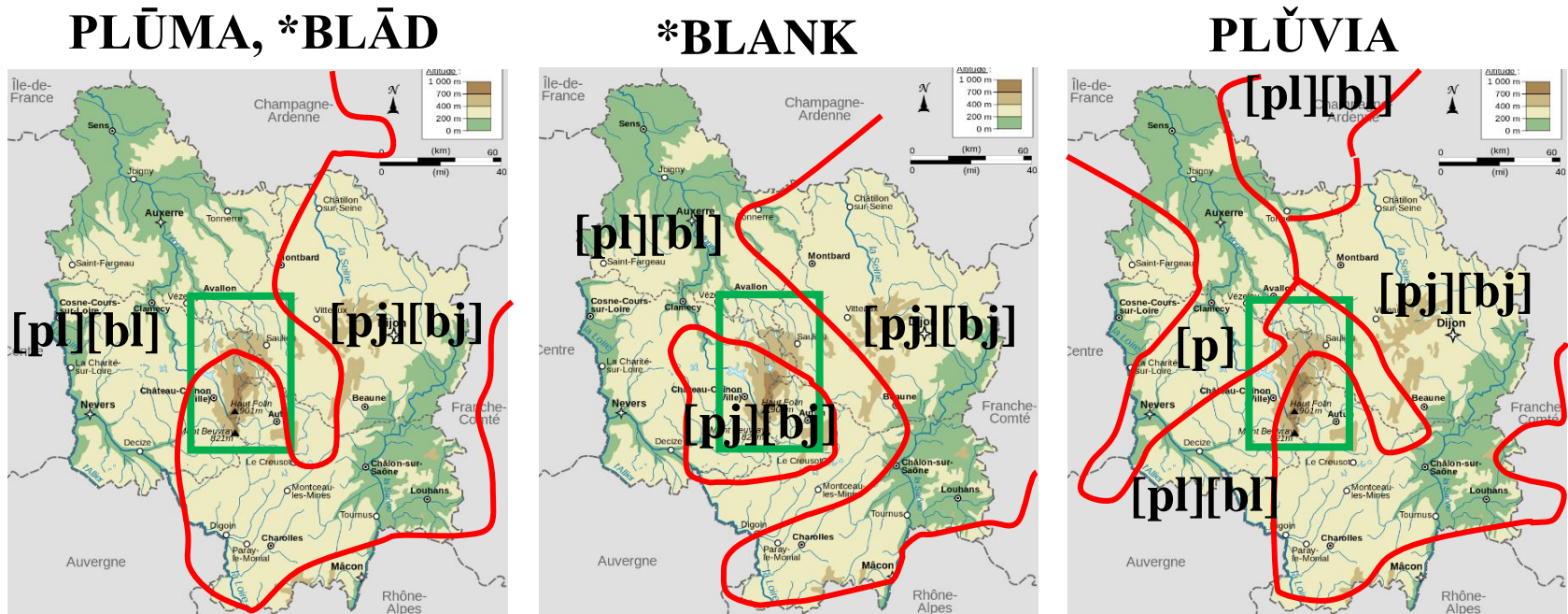


図11 20世紀初頭における4語の音声分布

- 西から東進してきた[p][b]と方言形[pj][bj]が、モルヴァンでぶつかっている。
- 左図は[p][b]がモルヴァン北部から侵入しようとしているところ、中央の図は[p][b]が迂回してモルヴァンに[pj][bj]の島が形成されたところである。右図では [p]が比較的新しく北西から南下し、モルヴァンにぶつかって方向を変えている。
- モルヴァンの[p][b]、PLŪVIAの[p]は、周辺地域と連続している。モルヴァンの[pj][bj]は、東部と連続している語と、連続していない語がある。

5. 結論

①モルヴァンでは同一の語源から同一の音声変化を経たか？

●4つの語源（語頭のC(A)-、語末の-CC(A)、語頭のPL-、語頭のBL-）の分析から、モルヴァン全域では同一の語源から同一の音声変化を経ていなかった。

5. 結論

②モルヴァンでは音声分布に特徴はあるか？

- 語源のC(A)-/-CC(A)で見られる[j]の分布は、ブルゴーニュ地方やその周辺地域と連続している。
- 語源のC(A)-/-CC(A)において山岳地帯で見られる方言形[s]は、周囲との連続性がない。
- 語源のPL-/BL-で見られる[p_l][b_l]の分布は、ブルゴーニュ地方西隣のサントル地方から連続している。
- 語源のPL-/BL-で見られる[p_j][b_j]は、ブルゴーニュ地方東部、さらにシャンパーニュ地方から連続している。
- 標高の高い地域には方言形 ([s]や[p_j][b_j]) が見られる。
- 同一の語源を持っていても、語によって音声分布がことなる場合がある。（例：C(A)-の3語、PL-のPLŮVIA ([p]の分布))

5. 結論

以上のことから...

- 周辺地域の方言形あるいは標準形がブルゴーニュ地方に侵入すると、モルヴァンの山岳地帯にぶつかり、迂回して進む。おそらく山岳地帯にも徐々に侵入する。このプロセスによって、モルヴァンでは侵略した音声と方言形の両方がみられる。すなわち、モルヴァン方言は音声的に均一な方言ではない。
- モルヴァンでは語それぞれが歴史を持っている。同一語源を持っていても、語それぞれがたどった経緯が異なっていた。
- Régnier (1979a :185-186) は、「単語は地域によって別々に育まれた」と述べている。それぞれの語の音声には、地理的条件が影響を及ぼしている。

今後のすすめ方

- モルヴァンにおける動詞の活用や機能語についても、音声・形態分布を分析し、本研究と同様に周辺地域との関連性を検討する。

参考文献

- BERTRANT, Paule.(1979), *Les parlers du Morvan III, Transcription des forms en orthographe française*,
Château-Chinon :Académie du Morvan.
- DAUZAT, Albert.(1922), *La Géographie Linguistique*, Paris : Libraire ERNEST, 『フランス言語地理学』、松
原秀治, 横山紀伊子訳 (東京：大学書林, 1958年) .
- DE CHAMBURE, Eugène. (1878), *Glossaire du Morvan;étude sur le langage de cette contrée comparé avec les
principaux dialectes ou patois de la France, de la Belgique wallonne, et de la Suisse romande*,
Paris:H.CHAMPION, LIBRAIRE, Autun:DEJUSSIÉU PÈRE ET FILS.
- FOUCHÉ, Pierre. (1966). *Phonétique historique du français, Volume III, Les consonnes et index général, 2e éd.,
rev. et corrigée*.Paris : Klincksieck.
- FOUCHÉ, Pierre. (1969). *Phonétique historique du français, Volume II, Les voyelles, 2e éd., rev. et corrigée*.
Paris : Klincksieck.
- LÉONARD, Monique. (1999), *Exercices de Phonétique Historique*, Paris : Éditions Nathan.
- POPE, Mildred Katharine. (1952), *From Latin to modern French with especial consideration of Anglo-Norman :
phonology and morphology*, Manchester : Manchester University Press.
- REGNIER, Claude.(1979a), *Les parlers du Morvan I*, Château-Chinon : Académie du Morvan.
- REGNIER, Claude.(1979b), *Les parlers du Morvan II*, Château-Chinon : Académie du Morvan.

TAVERDET, Gérard.(1973), Patois et français régional en Bourgogne, *Ethnologie française* 3,3-4. 1973, Paris : Centre d'ethnologie française.

TAVERDET, Gérard.(1975), *Atlas Linguistique et ethnographique de la Bourgogne I*, Paris : Éditions du Centre national de la recherche scientifique

TAVERDET, Gérard.(1977), *Atlas Linguistique et ethnographique de la Bourgogne II*, Paris :Éditions du Centre national de la recherche scientifique
TAVERDET, Gérard.(1980), *Atlas Linguistique et ethnographique de la Bourgogne III*, Paris : Éditions du Centre national de la recherche scientifique

TAVERDET, Gérard. et Navette-Taverdet, D. (1990), *Dictionnaire du français régional de Bourgogne*, Paris : Éditions.

ZINK, Gaston. (1991), *Phonétique historique du français, 3^e édition, 1^{re} édition mise à jour 1986*, Paris : Presses Universitaires de France.

大賀 正喜ほか 1988 『小学館口べール 仏和大辞典』 東京 : 小学館.

FEW = WARTBURG, Walther von (1922-2002). *Französisches Etymologisches Wörterbuch. Eine darstellung des galloromanischen sprachschatzes (Vols. 1-25)*. Bonn/ Heidelberg/ Leipzig-Berlin/ Basel : Klopp/ Winter/ Teubner/ Zbinden.

<https://apps.atilf.fr/lecteurFEW/> (最終閲覧日 2020年4月29日)